

体験林業・森林教室の充実を目指して

南信森林管理署 諏訪事務所 総務第二係 〇堀内 志保
 諏訪南森林官 宮下 ひろゆき 博幸

要 旨

林政審議会や中央森林審議会の答申における森林・林業等に関する理解の醸成と森林環境教育の促進や教育審議会の答申を受けて改正された学校指導要領における自然体験や社会体験の充実が望まれる中、当所が行ってきた体験林業・森林教室について、アンケート調査を実施し、今後のあり方を検討したものを発表します。

はじめに

諏訪事務所においては、昭和57年から本年度まで18年間にわたり、所内職員を中心に森林官や基幹作業職員の協力も得つつ、業務との調整を区りながら、東京都多摩市、調布市、板橋区の小中学生を対象に、体験林業・森林教室を実施してきましたが、体験された生徒及び先生はどのように感じられどのように考えておられるのか、アンケート調査により具体的に把握し、今後の体験林業・森林教室に生かしてゆきたいと考えました。

1 体験者数の推移（図-1）

昭和57年度からはじめられた体験林業・森林教室は、平成11年度では、小学校17校1,131名、中学校10校1,117名、合計27校2,248名と年々増加している状況にあります。

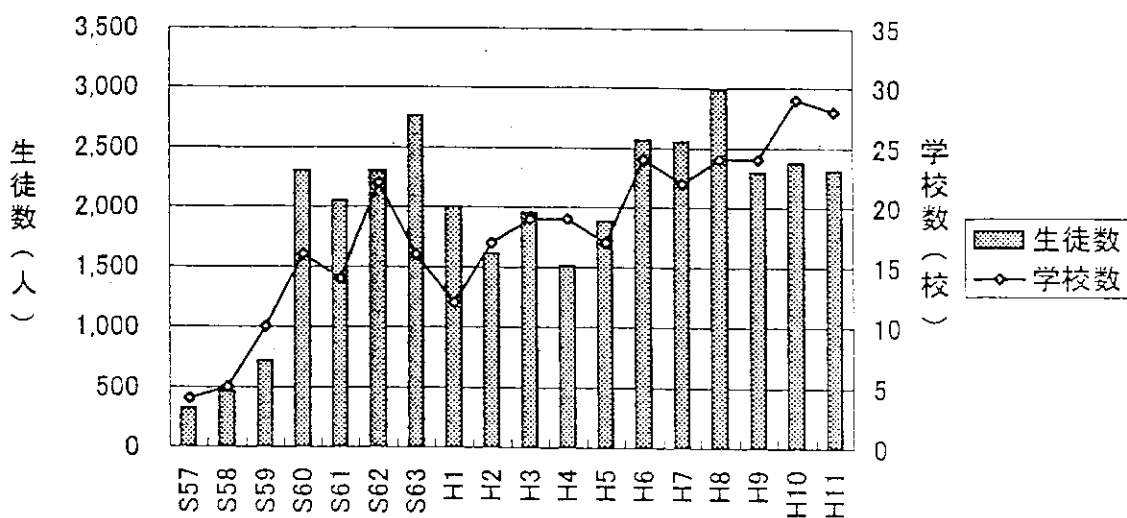


図-1 体験者数の推移

これまでの体験プログラムは、2時間と限られた中で、生徒50人に対しインストラクター1人の割合で、①挨拶、②作業の説明・注意、③グループごとの間伐体験及び希望する生徒によるコースター作り、④森林の役割、効用、国有林の説明等を内容とする森林教室を実施してきました。

2 アンケートの結果

(1) アンケート回答者数

今回のアンケートに答えてくれた人数は、表-1となり、回収率は約70%となります。

表-1 アンケート回答者数

	中学生	小学生	先生	合計
回答者数	667	747	67	1,481

(2) これまでの体験林業について、経験回数を聞いたところ、図-2となり、経験がない方は、生徒にあつては小学生54%、中学生70%で、先生におきましても、40%となりました。

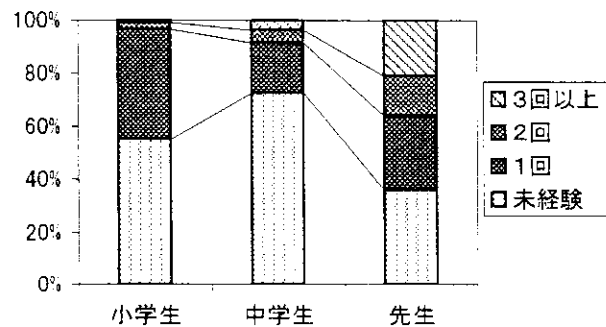


図-2 体験回数

(3) 今回の体験に対する印象を聞いたところ、図-3となり「楽しかった。」と回答した生徒は小学生で71%、中学生で57%となりました。

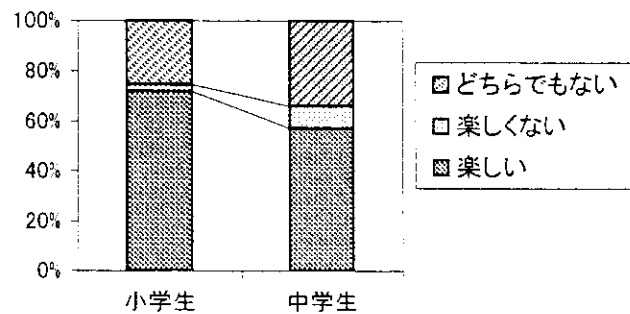


図-3 体験の印象

(4) 森林・林業に関する知識

ア 「国有林という言葉を知っていますか。」という質問について聞いたところ、図-4となり、「知っている。」と回答した生徒は、小学生26%、中学生40%と、ともに低くなり、あまり知られていないことが分かります。

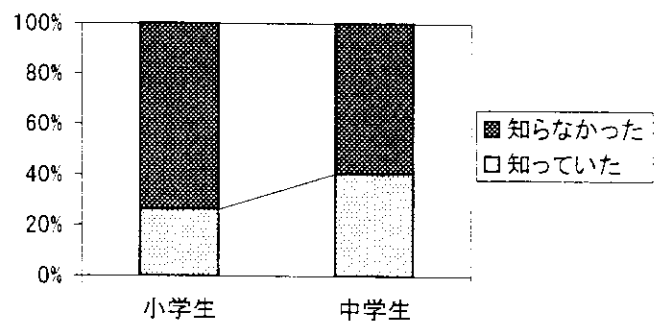


図-4 国有林という言葉を知っていますか

イ 森林の有する機能等について、「『水源涵養』『国土保全機能』『空気の浄化機能』があることを知っていますか。」と質問したところ、図-5と

なり、いずれも80%程度の生徒が知っていたと回答がありました。

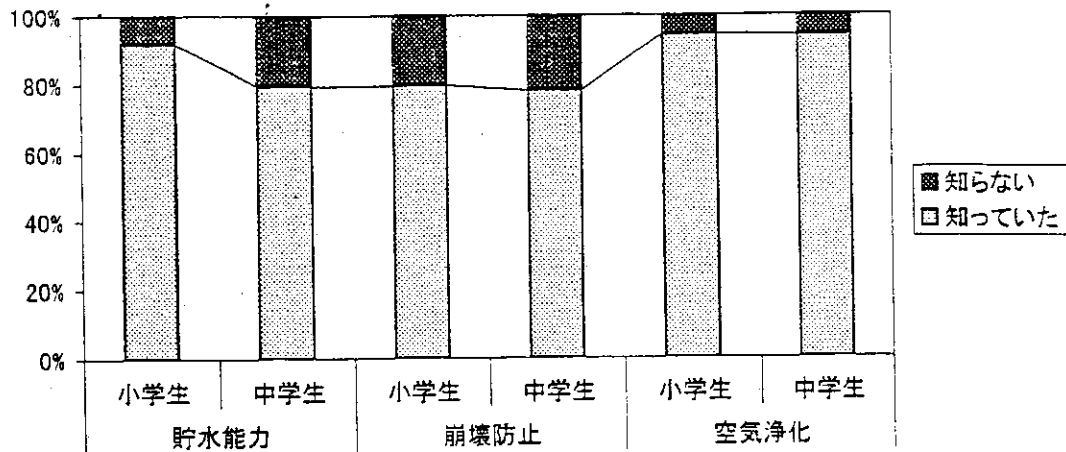


図-5 「森林の機能」について

ウ 「森林を育てるに当たり、人手が係ることについて知っていますか。」という質問では、図-6 となり、40%近くの生徒が「知らない。」と回答しており、また、小学生に比べ中学生の方が低くなっております。

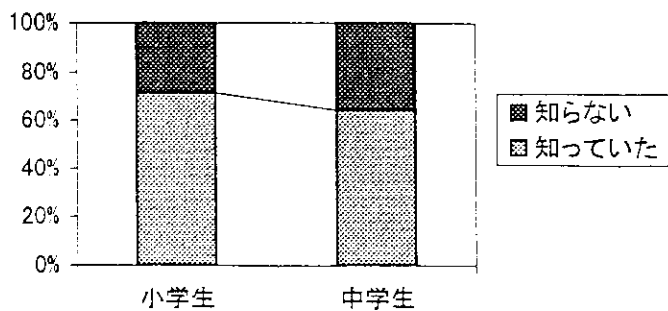


図-6 森林の造成に人手が必要と知っていますか

これらのことから、森林の機能については授業やこれまでの体験林業の中で説明を受けていても、林業に関することはあまり説明されていないものと考えられます。

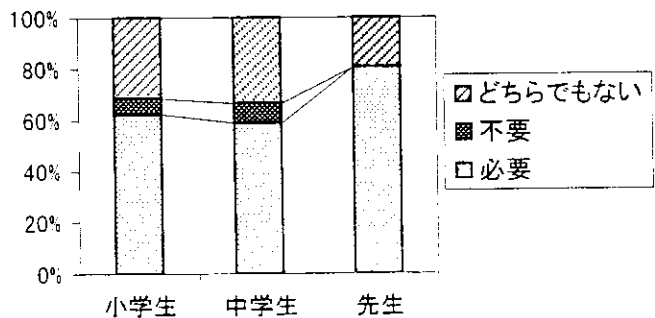


図-7 体験林業・森林教室の必要性

(5) 「体験林業は必要ですか。」という質問について、聞いたところ、図-7 となり、必要と回答された方が、小学生61%、中学生59%、先生81%と、先生に比べ生徒の方が低くなりました。

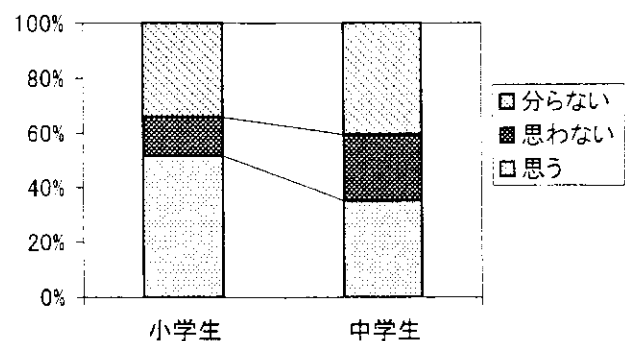


図-8 また体験したいか

(6) 「機会があればまた体験したいか。」という質問をしたところ、図-8 となり、「また、体験した

い。」と回答した生徒が、小学生で50%あるのに比べ、中学生で35%と低くなりました。

このように、小学生に比べ中学生の値が低くなる傾向が、他の質問でも見られることから、改善する必要があると考えます。

(6) 「生徒に対して体験林業でどのような作業を望むか。」と質問したところ、

- ・切った木を利用して何かを作りたい。
- ・木を植えたい。
- ・チェーンソーを使いたい。

などの意見がありました。

(7) 「将来林業の仕事をしたいか。」

という質問については、図-9のように、「考えない」方がほとんどですが、小学生で10名、中学生で17名希望している生徒がおり、先生におきましても、「退職後の転職において林業を考える。」と回答された方が7名おられました。

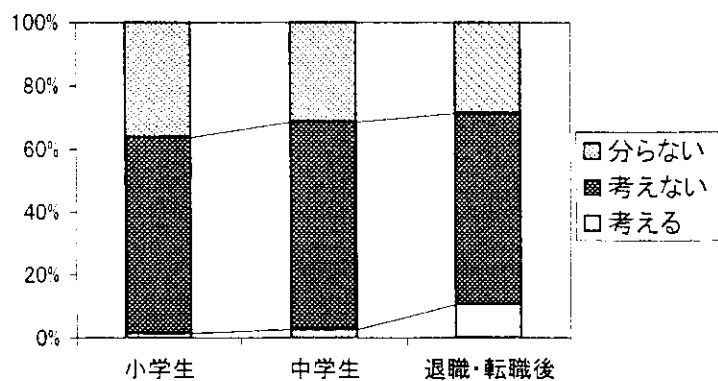


図-9 将来の林業への就業

(8) インストラクターとしての評価

本年度の体験林業、森林教室におけるインストラクターの態度、教え方、話の内容、作業の安全性及び総合評価という点で、私たちが採点していただきました。

その結果は図-10となり、先生方からはほぼ80点以上、小中学生からは70点以上の評価をいただきましたがその中で、話の内容と安全性についてはやや低くなっております。

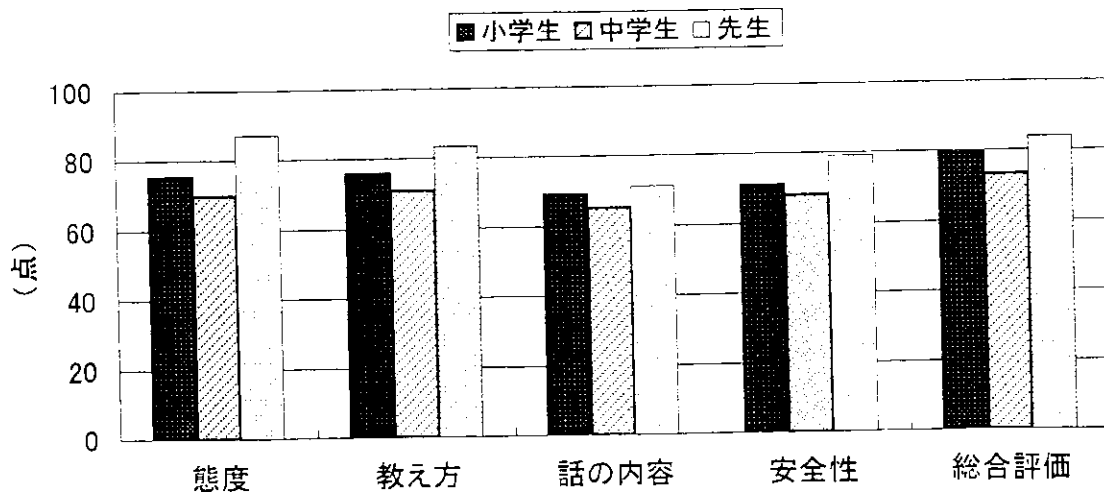


図-10 評価

(9) 体験林業・森林教室に対する自由な意見

体験林業・森林教室に対し自由な意見を聞いたところ、生徒からは、

- ・虫がいたりシカの糞があっただけだけれど、東京では体験できない作業が体験できてよかった。
- ・森林への関心が深まり大切に心が養えるからもっと多くの人に体験してほしい。
- ・木をきることは悪いことだと思っていたが、きることも必要であることが分かった。
- ・林業のことが分かったし、木を切るのは大変だったけど面白かった。
- ・親切に教えてくれたので分かりやすく、またやりたい。

などの感想をいただき、生徒の感受性に驚かされました。

また先生からも、

- ・授業では興味を示さない生徒も生き生きとしていた。
- ・教科書で得た知識が体感できよかった。
- ・林業に直接従事されている方々から話を聞くことができたのでよかった。
- ・森林・林業の役割について理解を深めることができるので今後継続して欲しい。
- ・グループでの助け合いなどの目標が達成できた。

など体験が有意義であった旨の多くの感想をいただきました。

しかし一方で、生徒からは、

- ・木を切るだけではつまらないので、何かを作りたい。
- ・5～6人で1本の木を切るため待ち時間が多かった。
- ・森林教室の話がつまらない。
- ・時間が短い。

などの意見もあり、先生からも、

- ・環境保全の効果が目で見て解る事象の説明・実験などはできないか。
- ・自然と人間の結びつきを考えさせたい。
- ・作業する時間を多く取ってほしい。
- ・作品を作らせてほしい。

など、今後体験林業・森林教室を継続していくに当たり、何らかの工夫をする必要があると考えます。



写真-1 森林教室の風景



写真-2 体験林業の風景

3 今後の体験林業・森林教室のあり方

以上のことから、今後体験林業・森林教室をより充実させるためには、アンケートでいただいた多くの意見を生かすための「体験プログラム」のあり方、私たちが「インストラクター」としてどうすべきか、そして野外教育の場としての機能を十分に発揮できる森林という「フィールド」の3点が重要な意味を持っていると考えます。（図-11）

そこで、これら3つの観点から、それぞれのあり方について、検討してみました。

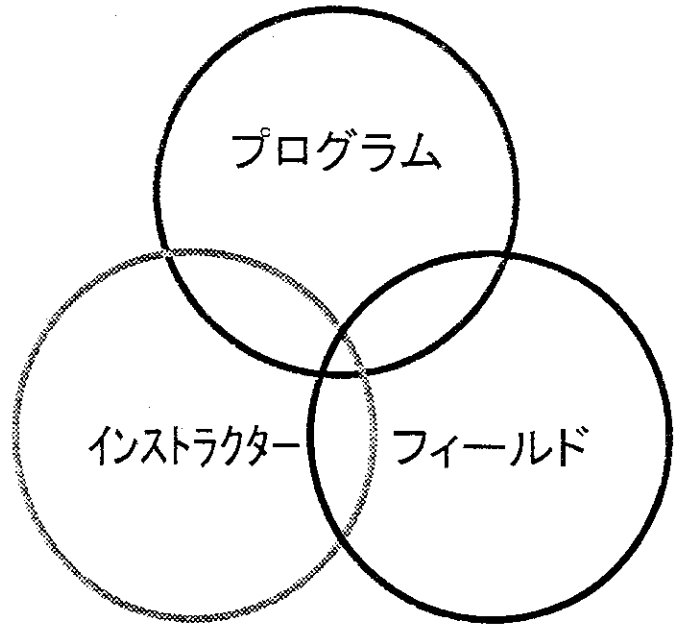


図-11 三つの観点

(1) 「体験プログラム」について

ア 事前の準備

(ア) 目的の確認

体験林業・森林教室において「何をテーマ」とし、「何を得てほしいか。」等の点について学校側とも十分調整した上で臨むようにしたいと考えます。

(イ) 資料等の配布

事前に資料等を学校や生徒に配布し体験林業・森林教室の中身について予備知識を得ていただくよう工夫します。

(ウ) 雨天時プログラムの作成

体験林業・森林教室当日が雨天である場合を想定し、必要な準備をしておきます。

イ 森林教室

「森林の持つ機能」「林業の重要性」「国有林の役割」などについて説明し森林・林業全般について理解を深めてもらうよう努めます。

ウ 体験林業

「目的意義を付与した作業」、「達成感、満足感の味わえる作業」という観点で、その作業の必要性や目的を十分理解してもらった上で実施します。

また、例えば間伐をする場合、切った木で何かを作り、持ち帰ってもらうことで、遠くの山や木を、身近に感じ、森林・林業と繋がっているという達成感、満足感が付与できる内容にしたいと考えます。

また、このようなプログラムを無理なく行うには3時間程度必要ではないかと考えることから、学校側へ要望したいと思います。

(2) 「インストラクター」について

ア インストラクターの人数

生徒とより多く接することと作業の安全性の確保の観点から、できるだけ多くの職員で対応したいと考えます。

イ 体験者との接し方

体験者と接する時の言葉・態度については、分かりやすく大きな声で話し、専門用語は一般的な用語に置き換える等に努め、生徒等体験者から声をかけやすい雰囲気を作っていくべきと考えます。

ウ インストラクターの服装

インストラクターとして親しみやすく、また、ふさわしい服装に努めるとともに、名札の着用などについて工夫をする必要があるかと考えます。

また、参考資料として、職員誰もが同じ説明になるよう解説書の作成やよりわかりやすいパネルの作成も考えます。

(3) 体験を行う森林という「フィールド」について

ア 作業及び林分の多様性

実施するにあたり、目的に合った林分の選定と多様な動植物などが存在するかなどの点を考える必要があります。

イ 安全性の確保

作業中、怪我等の事故が無いよう作業方法について体験者に徹底します。

また、事前に体験地及び作業方法を確認し作業時の安全を確保するとともに、怪我等事故が起こった場合の救急対策を検討しておく必要があります。

おわりに

以上、これらのことを工夫し、進めていくことで、体験林業・森林教室の充実を図り、体験者の森林・林業に対する理解の醸成に繋がればよいと考えます。また、受ける立場の生徒や先生が体験林業・森林教室を諏訪事務所において本当に良かったと言ってくれたと同時に、今後体験者がさらに増えることも期待したいと考えます。

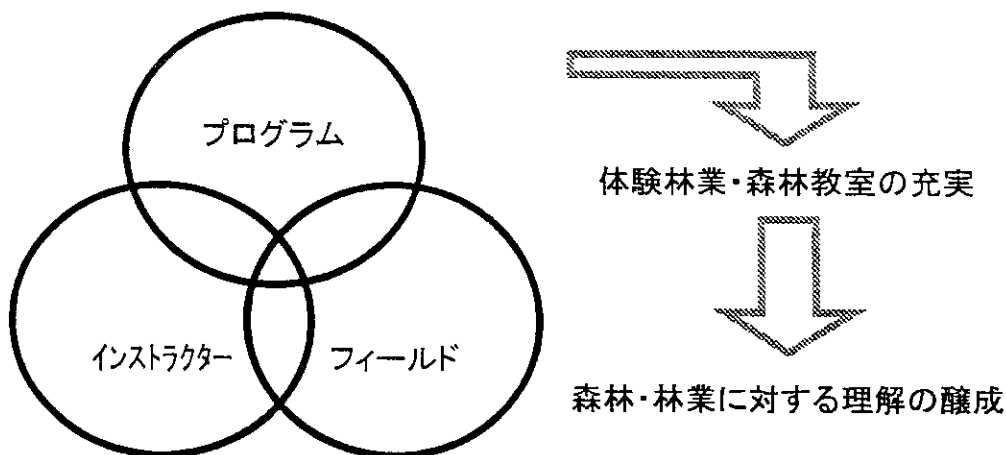


図-12 今後の体験林業・森林教室